

新入生の皆さんへ

ご入学おめでとうございます。東京家政学院を代表して皆さんを心から歓迎したいと思います。

本来ならばじかにお会いし、お話しするべきところ、感染状況を考慮して時間を短縮して入学式を行うことにしたことから、文書をもって祝辞としたいと思います。

皆さんはどのような気持ちでこの日を迎えられたのでしょうか。すでに将来就きたい仕事があり、それに向けて資格を取りたい、知識や技能を身につけたいと考えている人もいます。入学してからやりたいことを考えたいと思っている人もいます。

入学した頃の自分を振り返ると、就きたい仕事を二つか三つ思い浮かべながらも、まあ成り行きに任せようという気持ちの方が大きかったことを思い出します。目標を定めて学生生活を送ことも良いでしょう。いろいろな学びや経験を重ねるなかで、やりたいことを見つけるということも良いと思います。決められた時間割に沿って勉強する高校までの生活と、与えられた役割を果たす社会人としての生活の間であって、大学の4年間は自分で何かを選択できる自由が最も大きい時間といえるでしょう。この時間をどう活かすかで、その後の人生も変わっていくように思います。

そこで皆さんに一つだけアドバイスをしたいと思います。「好奇心は生きる力」ということです。私は民間の会社で仕事をした後、大学の教員になりました。会社時代には多くの学生の採用面接にも携わりました。採用にあたって一番重視したことは目の輝きです。いろいろな事柄に興味を持ち、学ぶ姿勢を持ち続ける人かどうか、そのことを最も重視して選考を行いました。

「人生100年時代」は「生涯学び続ける時代」でもあります。仕事に関すること、生活に関すること、趣味に関すること、そのほか何でも構いません。広く興味・関心を持ち、もう少し深く知りたい、そう思う気持ちを大切にしてほしいと思います。そのような姿勢や習慣を身につけることが大学4年間の最大のテーマではないかと考えています。これを私は「面白さを知る力」と呼び、授業や研究指導を通して、学生にそのことを伝えてきました。これからの大学生活でこのような力をぜひ身につけていただきたいと思います。

私たち教職員にとって、新しい学生を迎えることはこの上なく嬉しいことです。私たちは全力で皆さん一人ひとりを支え、応援していきたいと思っています。わからないこと、困ったことがあれば、身近な教職員にいつでも気軽に相談してください。

来年5月には創立100周年を迎える東京家政学院大学で過ごす時間が皆さんにとって実り多いものとなることを心より願って、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和4年4月3日
学校法人東京家政学院
理事長 吉武 博通